



国際ロータリー第2790地区
The Rotary Club of Yachimata

八街ロータリークラブ週報

<http://www.joy.hi-ho.ne.jp/yachimata/rc/>

例会場 八街商工会議所 3階 大ホール

毎週水曜日 12:30~13:30

電話 043 - 443 - 3021

FAX 043 - 443 - 7221

創立 1966年(昭和41年)5月22日



2019-20年度
国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー
Decatur RC(アラバマ州)

会長 増田 繁 ・ 会長エレクト 木村 利晴 ・ 副会長 笹川 英一 ・ 幹事 笹川 英一

第54巻 第12号 通巻 第2569号 合併号 2019. 11. 27発行 第2570号

第2568回 2019年11月13日例会報告

【出席報告】

SAA 小澤 孝延

【会長挨拶】

会長 増田 繁

例会	出席計算 会員数	出席	欠席	出席率%	MU	修正 出席率%
11/13	29	21	8	72.41		
10/29	26	7	19	26.92	8	57.69
会員総数 31名						
(名誉会員 3名 ・ 出席免除会員 5名)						
通算出席率 88.76%						



点 鐘 会長 増田 繁
ソ ン グ それでこそロータリー
お 客 様 米山奨学生
ホアン・ティ・フーン・
ロアン様
(船橋みなとロータリークラブ)

【ニコニコボックス】

◇本人誕生日・萬来 謙一会員

こんにちは。今日は米山奨学生で敬愛大学在学、ベトナム国籍のホアン・ティ・フーン・ロアンさんをお迎えしております。後ほど米山記念奨学会生形委員長よりご紹介がありますが、卓話をよろしくお願いします。

来る11月20日の諸岡ガバナー公式訪問は、富里RCと合同例会としてで、富里市のティンホタル成田にて行います。会員皆さんの出席と、クラブ協議会で発表を予定されている各委員長さん方にはよろしくお願いいたします。

さて昨日NHK TVが取材に参りました。この度の度重なる災害報道で、八街市の落花生の被害がことさら大きく取り上げられていたもので、私はNHKの記者に、台風・大雨の被害はさほどではなく、風評被害の方が酷い。是非とも農家と業者のためにも真実の報道で応援してくれますかと申しました。

ここでプレスリリース(メディアに連絡して取材に来てもらう広報活動)の話をしたいと思います。「広報」と「広告」では大きな

違いがあります。「広報」には公衆に情報を知らしめる。「広告」は売りたい広告主の本音が見える・・・消費者は引く・・・の違いがあります。「広報」のメリットとしては、無料です。メディアの報道は信頼度・影響力が高いです。ですからいかに上手に情報を提供して自分のところを取り上げてもらえるか。それには読者（視聴者）にメリットのある情報（季節感のあるもの、社会貢献度の高いもの、注目度の高い話題・ニュース）などの情報です。上手にメディアを利用できれば“ブランド”力の向上（会社の信頼度・知名度）に繋がる。とにかく無料ですので是非考えてみてください。

【幹事報告】

幹事 笹川 英一



◎RYLA実行委員会会議のご案内

日時：2019年12月14日(土) 13:00～

場所：富山ふれあいコミュニティセンター

八街RC 12月 例会スケジュール	
12月 4日(水)	理事会・年次総会
12月11日(水)	通常例会
12月18日(水)	クリスマス例会
12月25日(水)	休 会

【委員会報告】

職業奉仕委員長 林 政男

本日、竹村社会奉仕委員会委員長が不在ですので、私、職業奉仕委員長の林の方からご報告いたします。

本年度、両委員会合同による事業として



「中学生にドローン体験」をしてもらい将来の職業選択の助けになればということで実施する方向で検討しております。

ドローンは、軍事用に開発されましたが、現在では、農薬散布、火災時の上空から偵察、災害時の空撮、郵便物の高層階への配達の実験等、様々な分野で活躍しております。

中学生の職業選択の参考、若しくはドローンの新しい活用方法などに興味を持ってもらえる機会を提供しようと考えています。

市内4中学校ありますが、今回、中央中の校長先生が、幹事校長ということでお話をさせて頂きました。校長先生にロータリークラブの考えをお伝えし、今後さらに協議を進めて行こうと思います。

【委員会報告】

青少年奉仕委員長 小久保 和子



11/8～11/11 3泊4日で国際ロータリー第2790地区インターアクト台湾国外研修に千葉黎明高等学校から1名、八街ロータリークラブからは私が参加させていただきました。

今年は班行動で相談しながら行先を決めて、台湾の地下鉄での移動を実施したことにより日本の高校生と台湾の高校生との強い友好を築くことができたと感じました。来年もまた千葉黎明高等学校のインターアクターの参加をよろしくお願い致します。

【米山奨学生卓話】

ホアン・ティ・フーン・ロアン様 (船橋みなとロータリークラブ)



1. 自己紹介

皆さん、こんにちは。ベトナム中部のクアンチから参りましたホアン・ティ・フーン・ロアンと申します。名前が長くて、覚えにくいとよく言われますので、ロアンだけ覚えていただければ嬉しいです。現在、敬愛大学国際学部国際学科4年生です。4月より船橋みなとロータリークラブにお世話になっております。米山奨学生に選ばれ、とても光栄に思っています。言葉で言い尽くせないほど、深く感謝しています。本当にありがとうございます。本日は卓話の方、よろしく願いいたします。

2. 出身国

ベトナムは東南アジアに位置し、北は中国に、西はラオスとカンボジアの国境に接し、東と南は海に面する国です。ベトナムの国は細長い形で、北部・中部・南部にわかれています。ハノイ・ダナン・ホーチミンのような大都市の名をご存じの方は多いかもしれませんが、私が生まれた街は中部のクアンチ省にある小さい都市「ドンハ」と言います。車でダナンから2時間半、ラオスに近くて、2時間ぐらいかかります。クワンチ省にあるヒエンルオン橋は、ベトナム戦争当時、北緯17度線の、北部と南部の境界に掛かっていた橋として有名でした。クアンチ省はクアンチ城塞といったベトナム戦争の歴史に関する史跡が多いところです。

3. 家族

次は、私の家族を皆さんにご紹介したいと思います。私の家族は4人家族です。父、母、弟と私です。父は自由労働者で、家族のために一生懸命に頑張っています。母は専業主婦で、とても優しい人です。弟は中学1年生、サッカーが好きで毎日近所の子供たちと

試合をやっています。弟が生まれたときに、母は仕事をしていてなかなか時間が取れず、ずっと私が弟の面倒を見ていました。弟が大好きです。ベトナムで私の家は豊かなほうとは言えませんが、両親と弟の愛に包まれており、自分はとても幸せだと感じています。

日本に来てから、両親の経済の負担を減らすために、アルバイトしながら、学校に通っております。一人で日本に留学してきましたので、実際に両親は私のことを非常に心配しています。ただし、今年からロータリー米山奨学金のご支援をいただくことができ、学業にもっと専念することができ、両親の心配も少なくなってきました。

4. 日本留学のきっかけと日本語の学習

私は小さい頃に母国でよく海外旅行の番組を見たりしたことをきっかけに、海外にだんだん興味を持つようになりました。また、日本に留学して帰国した従兄からの影響をうけ、日本について興味を持つようになりました。そして、2013年にベトナムの高校を卒業した後、翌年には仙台の日本語学校に留学することを決めました。

ほかの留学生と同じく、学費のためにアルバイトをやりはじめました。当時の私は、日本語がまったく喋れなくて、身振り手振りで日本人の友達と交流したりする時期もありました。アルバイト先で、日本語がうまく出来なかったことで、お客さんに責められたことがよくありました。いろいろな挫折に悩んで、何度も諦めたと思います。でもそのたびに、周りの友達がたいへん励ましてくれました。そのような辛い毎日を過ごしているうちに、性格も段々強くなり、日本に留学する意味をますます感じるようになりました。そして、一年間が経ったら、日本語も段々上手になり、辛く感じることも少なくなってきました。

5. 日本での活動、学んだ大切なこと

日本での生活に慣れてくると、自分のささやかな力でも日本社会に貢献したいという意欲がわいてきました。そこで、数多くのボランティア活動に参加してみました。例えば、千葉に引越してから、大学を通して千葉市の国際交流員に任命されました。様々な国の方と交流する活動に取りくみました。そのほか、外国人講師として日本の小学校を訪ね、母国の紹介をすることで、相互理解を深めながら、世界平和を望む心を育てることができました。

将来は、日本とベトナムの相互理解、また世界平和に貢献したい仕事をしたいと考えており、

敬愛大学では国際関係学を専攻することを決めました。実際、国際関係に関する仕事をしようと思ったら、日本文化に対する理解も必要になると思っています。そのため、国際関係の専門知識のほかに、図書館で日本文化に関する本も読んでいます。例えば、一番感心しているのは、日本人の「一期一会」の精神です。一期一会とは、茶道に由来する日本人の心構えです。日本人は、お茶の会に臨む際に、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを知り得て、招いた主もお客も互いに誠意を尽くしています。私は日本人のこの精神に非常に感銘を受け、日々のアルバイトにも生かせるように努力しています。今働いている店では、一回だけお越ししていただき、その後はしばらく来ないお客さんがたくさんいます。そのようなお客さんに対して、「一回だけのお客さんだから適当でいい」という気持ちではなく、「一回だけのお客さんだからこそ最高のおもてなしをしよう」と常に心掛けております。今では、偶々半年前に出会ったお客さんがまだ私のことを覚えていてくださって、そして声をかけていただく時は、私にとって一番誇らしい瞬間です。

6. 現在の夢と将来の目標

日本の若者とベトナムの若者の文化、価値観などは異なっており、日本に来たベトナムの留学生たちが来日後の生活で様々なカルチャーショックを実感しているといえます。ですから、今後日本に留学することを希望しているベトナムの若者が留学生生活をよりスムーズにスタートさせるために、私にできることはないかと考えています。日本とベトナム両国の高校生たちの交流活動を企画・支援したいと思います。そのほかに、将来はベトナムを投資先とする日系企業に就職し、日越両国の経済の健全な発展にも貢献したいと思っています。

7. ロータリアンとの楽しい交流

6月25日（水）は、船橋みなとロータリークラブの初回例会に参加させていただき、本当に楽しかったです。あまりにも緊張しすぎて自己紹介もうまく出来なかったと感じていました。皆さんが笑顔で迎えてくださいました。心が温まるように感じておりました。その後、会員の皆さんに褒められました。また、美味しい料理を美味しく頂きました。また、7月13日に、船橋みなとロータリークラブの

富岡さんのおかげで、初めて「生け花」という芸術を実際に体験してみました。船橋みなとロータリークラブの皆さんは立派な方々であるとともに、国際的視野の広い方々であると実感しております。例会を通じて、キャンパスでなかなか触れられない知識を学ぶことができ、私のような普通の学生にとって、贅沢かつ貴重な機会を与えていただき、とても感謝申し上げます。

8. 米山奨学生になってから変わったこと

米山奨学金のご支援をいただく前の人生では、社会還元のことについてあまり深く考えていませんでした。米山奨学金のご支援をいただいてから、「奉仕」はなんであるか、また社会に還元するために今後はどうすればいいかについて考え始めました。それだけではなく、将来は学友会に入り私のような様々な国の留学生を支援したいと思います。



諸岡ガバナー公式訪問・八街RC富里RC合同例会



第2569回 2019年11月20日例会報告

【出席報告】

例会	出席計算会員数	出席	欠席	出席率%	MU	修正出席率%
11/20	31	23	8	74.19		
11/6	31	25	6	80.65	1	83.87
会員総数 <u>31名</u> (名誉会員 3名 ・ 出席免除会員 5名) 通算出席率 <u>88.39%</u> 11/6メイクアップ1名・泉水会員(理事会)						

点 鐘 会長 増田 繁

ソ ン グ 奉仕の理想
四つのテスト

お 客 様 第2790地区ガバナー
諸岡 靖彦様 (成田RC)
随行者
近藤 博貴様 (成田RC)

【会長挨拶】

会長 増田 繁

皆さんこんにちは。 本日は富里クラブ、八街クラブ合同例会を開催しましたところ、ご多忙の中多数の会員のご出席をいただきありがとうございました。今日は当第2790地区ガバナー諸岡靖彦様をお迎えして、ガバナー公式訪問例会として開催されます。ガバナーには連日公式訪問を続けられ、大変お疲れのところ、八街RC、富里RC合同例会にお出でいただきありがとうございました。そして第10グループガバナー補佐の寒郡茂樹様、同幹事鈴木様には、本日は宜しくお願い申し上げます。また富里クラブの皆様、ラディソンホテル成田のスタッフの皆様、今日の公式訪問のために設営・準備にお骨折りいただきありがとうございました。八街クラブを代表して御礼を申し上げます。

このあとガバナーの諸岡様の卓話そしてクラブ協議会において、各委員長よりクラブの現状や計画が発表されることとなりますが、各委員長には宜しくお願い申し上げます。ガバナーの諸岡様にはご講評をよろしく願います。今日は15時過ぎまでやや長丁場になりますがよろしく願いいたします。以上本日の挨拶といたします。



～国際ロータリーの現在とこれから～

本年度当地区ガバナーを務めます 諸岡 靖彦（成田ロータリークラブ）です。本日は国際ロータリーの現況と、来年10月に100周年を迎えます日本のロータリーの実情についてご報告すると同時に、私のロータリーに対する考え方を中心にお話しさせていただきます。

ロータリークラブ（RC）は、その会員であるロータリアンによって構成され、一方、国際ロータリー（RI）は、RCとRACによって構成されます。ロータリーの創設者 P. Harris (1868～1947) は資本主義社会の勃興期の、商業道德が忘れられてしまった1905年に、米国シカゴの街に信頼と友情の仲間を増やしたいという趣旨でRCを創りました。親睦と相互扶助が初期の目的でしたが、奉仕という目的を加えることによって全米に拡がり、国境を超え、今では200以上の国と地域に、クラブ数3万6千、会員120万人を数える世界有数の奉仕目的団体となりました。こうした世界中のクラブの連合体をRIと称しています。ロータリーは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりで、世界に目を開いて幅広い奉仕活動を国際社会に、地域社会に展開しています。

このようにロータリーは奉仕という基本目標の下に、世界中に会員基盤を有し、クラブを、地域を、世界をリードしています。ロータリーの活動を確固たるものにしてゆくためには、一人一人のロータリアンがロータリーを熟知して、私たちが所属するクラブをより効果的なクラブに成長させることが大切です。クラブを構成する一人一人のロータリアンがリーダーシップを身につけ、会員組織を強くして、社会が必要とする奉仕活動を継続させてゆくことがロータリー活動の課題です。

本年度RIのMark D. Maloney会長は、ここ20年間の会員総数が120万人のレベルで推移していることを停滞と断じました。情報化と交通手段の格段の進展がグローバル化を進め、世界の

動きがより早く、狭くなっています。他方で地域紛争が長く尾を引き、経済や通商分野には対立と分断が進み、世界中がバランス感覚を失っています。「あと少し」に迫ったが財根絶にも、時間と金がまだ掛かりそうです。マローニー会長は、かつてないほど分断化された世界に繋がりを取り戻すことができるのはロータリーであると断言します。ロータリーはより健康的で、平和で、持続可能な世界に向けた国連とのコミットメントを有し、他の組織には見られない平和と相互理解という精神の下に世界中の人々が繋がることが出来、目標に向かって意義ある行動を起こすことの出来るインフラを有しています。今こそロータリーの出番です。ロータリーの組織としての勢いを回復させ、地域社会や家庭、職域に新しいつながりを創り、世界をつなぐことがロータリーの使命です。こうした背景から、マローニー会長は『ロータリーは世界をつなぐ』ROTARY CONNECTS THE WORLD のテーマを打ち出されました。

私はマローニー会長のテーマを受けて、「ロータリーから千葉を元気に」のスローガンを掲げました。千葉を元気にするためには地区内クラブが元気にならなければなりません。私の使命はクラブを鼓舞し、クラブを元気にすることです。地区組織の総力を挙げて、クラブを元気にします。

さて、ご参集のロータリアンの皆様に投げかけてみたい話題があります。皆様ご自身にとってロータリーの魅力とは何でしょう、ロータリーを続けている理由は何だと思いいになるのでしょうか？ 来年10月に日本にロータリーが生まれて100周年を迎えます。「日本のロータリー100周年実行委員会」が一昨年全国のRCに対して意識調査を行いました。この中に日本人ロータリアンの意識を探ることができます。（この詳細は「ロータリーの友」2017年11月号に掲載）

上位6番目までの理由を拾ってみますと ①異業種交流ができる ②生涯の友人・仲間ができる ③自己研さんと学習・成長の機会 ④例会が楽しい ⑤奉仕活動ができる ⑥心からの親睦が得られる… となっています。奉仕活動への期待よりも、他人との関わりを大切にしている、という結果でした。皆様の場合はいかがでしょうか？

私の考え方ですが、「出会いの妙」、それがロータリーの魅力の第一です。2010 - 11年度にクラブ会長を務め、その後地区へ出るようになってから、殊に多様な地区ロータリアンとの交流が楽しみになりました。GND、GN、GE と年々立場がガバナーに近づくにつれて、シア・リーダーといわれる方々やPDGと接する機会が増えて、様々な人間像、彼らの奉仕活動の体験談、立ち居振舞い、

リーダーシップのあり方を垣間見てきました。ロータリアンは対等です。ローターの会合では、公式、非公式に関わらず対面すればどんな著名な方とでも対等なお付き合い、お話を交わすことができます。

「ローターにNo! は無い」とよく言いますが、回ってきた役目はお受けするのが良いと思います。ローターを学び、自分の世界を広げるチャンスだと思うべきです。苦手な分野であっても、ポジティブに受け取るべきです。不安な気持ちが準備を進め、問題意識を高めます。例会や奉仕活動では、意識して年代の違う会員、職業分類の全く違う会員との交流が視野を広げ、感性を刺激します。RIの青少年プログラムは年齢層によって設定が変わりますが、IAC、RAC、青少年交換、RYLAに参加しますと、ローターファミリーの幅の広さと若い力に教えられます。ものの見方、考え方そして何よりもローター観が養われます。このほかにもローターの世界的ネットワークの凄さ、R財団や米山奨学会の資金力は奉仕活動にとって、大きな原動力であり、その事業に惚れこめば健全で素直な寄付協力に近づけると思います。

ローターの全体像を絵にして表現すると、どんなことになるのでしょうか! 『ローターの樹』をご覧ください。青木貞雄がバナー年度の2016年の地区大会にRI会長代理で当地区に派遣された渡辺好政PDGがRI理事をお務めの2006 - 07年度の頃に持論を展開したというのがこの図表です。樹を育て、森を創る発想は日本人の自然観によく嵌ります。森を征服して街を切り拓くという西欧人の感性との差が見て取れます。土壌（中核的価値観：親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ）があって、根（Rの理念）があるから幹（Rの目的）は育ち、幹を太らせれば枝葉（五大奉仕活動や6つの重点分野）が広がり、陽光を浴びて果実（R財団）が実り、全体景観としてのRの公共イメージが向上する…というものです。

この『Rの樹』から様々なインスピレーションが生まれます。ロータリアンは「個」からスタートして自学（楽）自習して、個のリーダーシップを養います。樹を大きく育ててゆくには高潔性という土壌が特に大切です。ローターがローターであるためには、職業倫理に従って得た経済力が個人の奉仕活動の原動力になるからです。「クラブ」が地域社会に働きかける要件として、クラブが元気でなければ地域に対して健全な提案やリーダーシップが発揮できません。会員基盤を多様化させて、クラブを持続的に盛り上げてゆくことが大切です。クラブの活動計画は奉仕活動も親睦も絆を創るための相互の存在と役割を認め合って、タテの活動

だけではなく、上位の目的を共有し合うヨコワリのクロス・プロモーションを意識して動かなければなりません。この樹を持続的に、いかに強く育てるかは、戦略計画の課題です。樹を育て、森を如何に創ってゆくかはクラブ会員全体の総意に関わります。全会員の討議で森を創るビジョンを構想してください。ビジョンができたら毎月の、毎年の作業計画を創って、実行してください。半月後、1年後の実行チェックは欠かすことのできない、次のステップに向かう大事な振り返りです。こうして樹が育てばローターの活動はますます意義深くなり、楽しくなることでしょう。

ところで、世界のローターと日本のローターにはギャップが生じている、ということをお聞きになっていませんか? 日本のロータリアンが重視する職業奉仕（実は、日本人ロータリアンがこだわっているのは職業「倫理」のようです）は、世界中の何処へ行っても通じないというのです。職業奉仕とは職業上持ち得た専門知識や技能を生かして社会奉仕に貢献することだと、世界は考えているようです。職業奉仕を特別なローターを動かす土台としては考えていないのです。先の規定審議会でRACをRIの会員として認める件や、例会の欠席補填（メークアップ）を当年度以内とする緩和決定には驚きました。しかしこの狭い日本列島で2000年もの永い間、自然神信仰（神道）、仏教、儒教を自生的に「餅をこねるように」創り、武士道や商人道に形成し、実践してきた日本人の思想の風土を考えれば、職業奉仕の重視というスタンスは軽率なポピュリズムよりは遥かに重いものです。日本のローターがガラパゴスとか、周回遅れで走っているという評価はいただけるものではありません。来年に迫った日本のローター100周年では、ローターという米国建国期ピューリタンの思想潮流を、日本人の風土、文化になじむよう取り入れてきた社会運動として正しく評価されるべきものだと思います。如何でしょうか。

さて、これからのローターの方向はどうなるのでしょうか? 5月から日本の元号が「令和」と改元されました。明治以降の大正、昭和、平成の150年はおよそ30年ごとに登り坂と降り坂を交互に経験してきました。平成の30年間の日本は、バブルの崩壊以後世界同時不況、大震災や自然災害がつづいて、降り坂の30年でした。外に目を向ける産業分野もありましたが、大多数の内向きな日本人は「井の中の蛙」と化しました。政府は内需を高めるために躍起になって財政出動しますが、国の借金が膨らむだけでした。人件費の上昇以上には生産性が目立って改善するわけではなく、低成長（時にはマイナス成長）が



つづいています。

令和の時代には、もっと大らかに、日本人が持つ相手に心を寄せる優しさが発揮される時代になって欲しいと思います。そして日本人がもっと国際社会に出て、世界に貢献でき期待したいと思います。そのためには、ローターと同じように、日本人は明確な国家戦略をもつことが必要です。先ごろ経済同友会が発表した『危機感なき茹でガエル日本——過去の延長線上に未来はない——』の、日本再生の処方箋をご紹介します。三次元の図表で表わせば、X軸＝経済の豊かさの実現、Y軸＝イノベーションによる未来の開拓、Z軸＝社会の持続可能性の確保、という社会の、近視眼ではない30年、50年後を見通した構想を基本として、そこに到る道筋を考えなければならない、ということです。令和の時代を、「敗北と挫折」の平成の30年の延長と思うのではなく、危機感を持って、日本人の繊細な感性を生かせる健康長寿、地球環境、持続可能性を構築する分野などで世界のトップを目指すべきです。

1月のサンディエゴのRI国際協議会で、GEとしてGETSに参加したとき、会場の入り口に掲げられていた標語は Join Leaders ,Exchange Ideas ,Take Action ! … 「リーダーを集め、意見を交換し、行動に移せ！」でした。かつてのそれは、Enter to Learn ,Go Forth to Serve! … 「入りて学び、出でて奉仕せよ」でした。標語が変わったことの意味する所は、RIが戦略計画を構築するための姿勢を示しているものであると理解します。リーダーを集めて、意見を交換して、そして行動する、ということです。これがRIのこれからの行き方です。

以上で「RIの現在とこれから」というお話を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

【クラブ協議会】 司会 幹事 笹川 英一



《管理部門》 会長エレクト 木村 利晴



ロータリーの目的は、「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。」という実際ただ一つの綱領（目的）があります。各会員が、何のためにロータリアンになりロータリー活動をしているのか、原点を忘れず各委員会活動を進めて行ける様、研修を含め会員各位の資質向上を図って参ります。

管理運営委員会は、クラブ活性化のお手伝いをする機関であると認識しております。ロータリー活動が充実したものになる様各委員会の連携を図り、積極的に活動してまいります。

ロータリアンの「原点を知り、考える」と言うことでは、ロータリアンとしての意識や行動、認識、規律など再検証し、クラブ定款、細則を遵守し、各会員相互の活力意識の喚起を図り、活動してまいります。また、サポーターとしても協力してまいります。

今までの反省として、個人の資質向上、会員事業の発展、八街市の発展に寄与する取り組みが、中々、出来ていなかった様に思われます。今後の取り組みとして、色々な分野の方々を講師としてお招きし、卓話を通し、クラブ、個人のレベルアップに繋がればと期待しております。

以上のごとく、さらなる研修の強化、公共イメージ、認知度アップを図り、会員がロータリアンで良かったと思えるクラブ運営を目指し、目標となるクラブづくりに邁進してまいります。

《奉仕プロジェクト部門》

青少年奉仕委員長 小久保 和子



八街ロータリークラブの奉仕活動として、ふれあい夏まつりへの参加と社会福祉協議会の地域ぐるみ福祉推進活動への協力を行っております。そして青少年奉仕では千葉黎明高等学校のインターアクトクラブをサポートしております。若者たちが世界へ羽ばたき、日本だけではなく国際社会においても活躍していけるよう応援しております。

11/8から11/11まで国際ロータリー第2790地区インターアクト台湾国外研修があり千葉黎明高等学校から1名八街ロータリークラブからは私が参加してまいりました。3泊4日という短い期間ではありましたが、日本のインターアクターと台湾のインターアクターとの深い交流ができたと感じました。

この他に今後継続できる新たな事業を模索しており、社会奉仕と職業奉仕の協同で中学生への職業教育などを検討しております。

職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕をリンクさせた広がりのある奉仕プロジェクトを育てていけたら良いのではないのでしょうか。

《戦略部門》

会長 増田 繁



発表します。

八街クラブの戦略計画と問われましても、当クラブではまだ戦略委員会なるものを立ち上げ

ておりません。我々は、第2790地区の戦略計画のもと、第10グループ八街クラブにおいては単年度で収まらない長期的な事業運営を進んで協力したいと思います。

八街ロータリークラブの目標としては、多種多彩の会員を募り、地域との密着した交流、奉仕の理念のもと、楽しく和やかな雰囲気の中で会員の自己研鑽、充実した内容の楽しい例会、出席したくなる意義のある例会に務めたいと思っております。

また今年度中には理事会に諮り、戦略委員会を立上げ、八街クラブとしての長期的な視野に立った戦略計画を練っていきたいと思っております。

《クラブの課題と対策》

直前会長 山本 和男



八街クラブに於いての課題として二つ程あります。

1、 会員増強について

八街クラブに於いては毎年3人の会員増強を目標としています。わずか3人ですから、簡単に目標の達成ができそうですが、これがなかなか大変なことで、昨年度は退会者5人 新会員4人という結果に終わりました。実質マイナス1と年度当初の会員数を維持することが出来ませんでした。八街クラブでは会員増強委員会を中心に、皆さんに候補者の推薦をお願いしているのですが、候補者が上がってこないのが現状です。また例会時に「会員増強するには」ということでグループディスカッション等を行ってはいるのですが、思ったように増強が進まない状況であります。

対策:これはといった手立てがないというのが本音であります。とにかく会員全員で増強に取り組むことしかないのではないかと思います。諦めず地道な増強活動に努めていくということ。

2, 社会奉仕活動について

八街クラブは地域密着型の奉仕活動として毎年夏には八街市夏まつりに協賛して子供達に大変好評なダーツゲームやポリオ撲滅のPRや募金活動等をしています。

秋には八街市の産業まつりに参加してバザーを催していたのですが、昨今時代の変化に伴いバザーに出品する品物が各家庭になくなって出品物が集まらなくなり今年度は

不参加ということになってしまいました。長年続けてきた事業であっただけに寂しい思いです。この事業に代わる奉仕活動を見出したい。

対策： 社会奉仕委員会をお願いしてあり、次なる活動計画を模索中ということなので、より良い地域に密着した活動ができる事業案を期待したいと思います。



広報・公共イメージ向上委員会・高橋宏一・西村頼子